夫木和歌抄

壹

1765
4

122

121

4利へ門
1765
4

支木和歌抄巻第四

春部四

花

遅日　春月

花

建仁二年正月十首内御歌　春花

藤原秀能朝臣

春きてくさつまるまで花のさくらもつまるまで

家集花部中　西行法師

雪の中に春をまちてうくひすの鳴くこえ聞くはうれしき

春の月ゆくへもしらぬ桜花ゆくへもしらぬ春の月

ゆくへもしらぬ春の月

月隠れ山の桜の花ぞ散る

建保四年百首

この花へ初もれぬ春をかすめるん山の櫻末　　従二位家隆卿

百首歌

さらす木のそりの形ゆゑ花もの春のけうもの春　　隆祐朝臣

家集

山櫻さらしの形ゆゑ数へ方ゆゑ花ものうゆゑ　　源仲正

法橋百首家櫻歌　　同

いとそうん沈かつ花ほ方ゆゑ花に方ゆゑ　　ひとまそれん

南小百首歌合　　慈円和尚

花はなまとしらいろ清さ　　ちりそうめくころの春の里

三百六十首中　　そうご

ちさそうそうれ　　曾丹集

新とのそしあるの櫻さらうれ花櫻ゆゑとしとそうに嘉そ

十首歌合　山花代　　四位新あり

春きて今そちゆゆ　　たまそきゆる山の和さそ花

山櫻春花　　信実朝臣

ちりゆくかゆゆの櫻　　たはもきんかりくそのうりうやん

百首歌　和歌　　法二位家隆卿

天河ないぬ物人さそ　　のかはむうはぬのそゆあ

建仁二年五十首歌　山花未遍

[illegible]

[illegible]

[illegible]

家集花十首中

修理大夫顕季卿

いまさくらゆめかとのみなりすのはなにかすらん

家集をとめ花をこそ西行法師

四宗上

おひつとにはなをせまし此春の花待つけぬるをこのまちをへ

家集

なつくさのゆめのこのもとのみなをこそ種ゆるなりけれ

家集三月中

ほとときなくこのはるのはつこえをまちてこそ聞

花供養

万代

続千載雑一

さくらさく富士の麓の人のもとにあるもなをあやかるらん

中務卿親王家百十番合

道

拾遺正義

奈良

さくらさきにけりとしるしるしる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

文イ

文永二年毎日百首中　民部卿為氏

[illegible]

建治三年毎日百首中　同

[illegible]

文永元年七社百首　同

[illegible]

玉雜一

花さかりちらすまつ車のとまるかはすぐるあるさ

三字　歌　老

はかなくて[illegible]のはちらす病よりつたるうつろふ花の

[illegible]

[illegible]

[illegible]

久安五年七月内裏歌合花

源親房

第安元年八月会其師房歌合花

法橋顕昭

立田姫花のもとにあつまりてやまひろきまつすゑ
判詞 歌 輔 ニ字 ナ
どさせる給をやみ美のきをそむる弟とバさ
はひめといひけるとそむる弟が立田ひめとな
いとろとろしきもの事ろ美のようてひち

三字下
いにしへづくしく但万葉集よりまきの立田
歌
姫とらえ色ふかめ手ゆかのうよあり
ゆ
ゆ仰ふ月にはなれこ行合ぶにうの
歌
異
ふ
ふ
置
ところく

洞院摂政家百首花　法之住花家
卿
みね
をあれはのしらさくらはなにうつりあはれ
家
家
歌
日
ちかのうれしのとはうつりこんをせもゆむのしらあかつき
後
家
歌
中
伝
信
家
歌
中
散木春
袋草
日
路
なれのはるの揺はうつりをのうつりさ
間
あらしの
日
こまとうまたあすうすうるしんさうの山のうたをまれくるあ揺を
日
日
さくらにおもはるめをいまうつのあさのうを長めきうをこころも
歌
家
家
文
永
元
年
中
拾
伝
西
行
歌
さくらの山のうつそまうるとは揺むうしめう月よりうをうそうう
さくら
日
帖題
うは伝ふざうう
片
さくら
あさつさのうの山の梅はうりあすいんとうつへすをやや
ひと
家
家
永
中
題
を花
日
むこ
うう西ちやうれ出をうう
日
さくらいま
建長
建
建長二年百首歌
日

[illegible]

柳桜交枝　　俊頼朝臣

あすもこん[illegible]の桜の糸よりすかけ

[illegible]

神山[illegible]

[illegible]

同　　六番左勝

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

同二年百首歌花

[illegible]

遠仁三年三月和歌　前中納言家隆卿

[illegible]

摂政太政大臣

[illegible]

遠治八年百首歌合　前大納言為氏卿

[illegible]

西行法師家集

[illegible]

百首歌

[illegible]

新千春下

[illegible]

家集

[illegible]

百首歌

[illegible]

布引百首歌

[illegible]

遠保三年百首

檜

[illegible]

家集

[illegible]

西行法師家集

[illegible]

家集

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

河

[illegible]

家集

[illegible]

[illegible]

[illegible]

玉葉寿上

法眼定覚

常盤井入道太政大臣

前後撰集抄

光華門院入道前太政大臣家歌合百首 品

[illegible] 如願法師

家集 山中花 歌 後二位中將隆房

ゆくすえのむつれてうしやとやんとせ 春中 種

河邊花 明玉

[illegible]

平泰 河邊花

家集

ゆくすえ花のゆめうつろうるめうつ[illegible]

[illegible] 散

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

玉春下

[illegible]

日上

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

前右兵衛督家

[illegible]

遠保二年内裏歌合花

[illegible]女

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

遠仁元年[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新後撰春下

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蘆

[illegible]

百首御歌

[illegible]

[illegible]

建長八年百首歌合　後九条内大臣

花盛ゆくとはなしの山路かな

山桜　判者藤原為氏

てやすらへ行り

実隆卿

[illegible]

判者藤原為氏

三月三日

行きとまらぬ

家集花歌中

雲葉

[illegible]

三百首御歌

[illegible]

十首御歌　関白

中務親王歌合

亀山院四季

たち

[illegible]

[illegible]

第五皇院入道二品親王家五十首歌

さくら

[illegible]

[illegible]

月

[illegible]

吹

[illegible]

やまかせ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

為忠後百首

花[illegible]中

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寛永元年中　醍醐法師

やまさくらかすみのうちにかくれいて　山の月はいでぬるを

院家後拾遺　合花源氏

とりのこしたる山の桜の花と月とのもとにて　源具親卿

建保元年内裏百首　山中花々

河霧せし色は　お中納言定家卿

たつたやま　千首和

三吉山　藤原定家卿

ふるさとの　藤原定家卿

寛治元年十首和歌　常盤井入道前太政大臣

ゆきかへりしかすがの山の花　三位

日　われ

たちぬ波の　たち

たきの　たき

ゆきかへりしかすがの山の花　ね

四条宮内侍　徳歌

流のこりふるさとの山桜　う

花　はな

寛治二年百首　後拾遺

ゆふ　ゆ

ゆふ附日さすやたりの山桜　さくらはな

院後拾遺　西三位家卿

明王　あけぼの　ゆふ

あけぼのの雲にうつろふ山桜　やまさくら

家集 六林

ちりかゝるこゝろの後の手向草あさぢがすゑにあるかな

家集 嘆山

清輔朝臣

春の夜の夢の浮橋とだえして峰に別るゝ横雲の空

続千春上 右

大納言百首 御歌

法勝寺院四製

やまひの事 はらとも

やまひの事 あに

四季花 御歌

中 たみ

法勝寺 徳

宮

家集 花 百首 御歌

中 月 雪イ

かさとりの男は桜やさかりなん春のなかばの雪のふるまに

春の百首 御歌 合 白

いとゝ白つゝじ

こゝろ

法勝寺 御歌 花

こゝろ

こゝろ

こゝろ

御歌

春ッ方中院内大臣　洞院摂政

いこまやまのかすみのうちとみるまくにしらくもの桜花ちりぬ

花歌中　右京大夫

万代

いこまやまのうちにさくらの桜花ちりのこりたるこのもとの人やうらうん

文永二年七月白河殿七首歌　藤原

民部卿

さきたちぬこのもとのこしたの行末山花のちりのあはれなる

遠

かさ山の花ぞちりぬる　中務の卿親房

いこまやまの桜花ぬし　親房

初治元年百首花　法二位入道

家集

正三位知家イ

はつさくら

いとし

はやし

はつ

明五

はる

色

はるかに

仲実卿

光俊イ

近衛

夫顕

宣

舞卿

家集

八十くらの白雪ふる山の桜花ちりのこりたるこのもとの人

西園寺大臣家集

[illegible]

百首歌御中

慈鎮

春落花

[illegible]

拾玉六

[illegible]

月

[illegible]

法橋百首歌

源仲正

[illegible]

家集

僧都親[illegible]

散木春

[illegible]

[illegible]

[illegible]

屏風歌二月

元輔

[illegible]

家集

[illegible]

大宰大弐[illegible]

[illegible]

[illegible]

順

遠保三年内裏歌合山花

源二位家隆卿

[illegible]

源二位行宗卿

[illegible]

花月百首歌

慈鎮和尚

つくしかたをさしてくだりしに海をへてかはまちをすぎしかは

家集雲之上中　歌

東京法師

風に吹せぬ雲とみしかはまちをいとはばるかに見わたせは

家集

和歌所

ひとしれぬ花ぬすみつるこころにくしかへらんかたのなこりをしのはん

程

竹の葉に花代ふりかかるとしるしは

同

ゆきのかたにうちもとけてすはるかはるとしるしはなりけり

花月百首歌

村鳥

はなの根に村鳥の音のうちとけてやとうるさきにはるのあけぬる

はなの根に村鳥の音のうちとけてやとうるさきにはるのあけぬる

はなの根に村鳥の音のうちとけてやとうるさきにはるのあけぬる

紀伊五十首　同　露

雪ふりてかつ消のこる山の雪のうちとけぬるはるのあけぬる

光明院入道二品親王家五十首

家集二條中納言家十首和歌

浅二條兼清卿

あさくらの花のさかりのうすくもるのやまのはるのあけぬる

家集二條中納言家十首和歌

如覺法師

あさくらの花のさかりのうすくもるのやまのはるのあけぬる

花月百首歌

慈鎮和尚

山里の岩の白雪ちりぬるはるのあけぬる

[illegible]

寛和二年三月須子内親王奇合さくら

いつまでもとゝろうまのかたの山の桜

永暦元年七月清慎郎女奇合さくら

つきもこゝろの山ぬしの桜ぬしはなを

寛元四年十月南左面内侍

のちせ山ちゝめ桜のさくらの花ゝてありとゝろ

花門院中納言入道殿

[illegible]

遠江二年文子首ゝ奇田郎花

為信和尚

桜さくら山のそゝめ花さくら枝すゝしいはん

家集　大納言有家

春ゝしのゆゝ中桜咲ゝうのさかりにあるめきた

あゝめ子首山花　基家院入道二条親王

あつさゝてゝ花と枝つゝさの山ゝかゝる白雲

為家正面郎

春ゝうすゝうすゝるひゝちゝせ山桜の里の花ゝめ

建保四年内裏名所歌合 後鳥羽院御製

春のゆくをしみ心ひめの花ちりけてやあらしの

内

おもかたみとしのさやうちとけなきをきかぬ嵐

内三年名所百首

法二位花宗

こゝろをしらぬ猶のうちらし桜の波のうちぬりまし

花薬房光

ちる花いろうつりてうちなれぬ春のうちさそふ

春歌中人家

春歌山ひこの花のうちまつ春の春のうちとけ

院二条

見うをの井の花の面白きをうちて春のうち

家集 内春上

桜花ゆかりのうちとうつりかつうちまつ春のうち

中納言為兼卿

家集雜俊浦春

おもかたのうちとうつりかすみ春のうちとけ

安嘉門院四条

郭公和

中納言為兼卿

桜花今ゆかりのうちとうつりかつうちまつ春のうち

内

内

あしのうちとうつりかつうちまつ春のうち

家如今家今合山を花主

形部卿為兼卿花主

いとうの山吹の花のさけるを

はるの日の春の山の花の盛りを

二月

はるの日の春の山の花の盛りを

やまたに

はるの日の春の山の花の盛りを

やまたに

はるの日の春の山の花の盛りを

やまたに

四五 小塩山神代の春や散くらん白ひもつきあまの川ゆふ
春歌の中　　潔孝朝臣

拾遺六 おほはら 大原やこしの山の桜うつろひぬらん
四季　　三条太政

新続古春上 さくらはな 桜花さくらもうつるかすみかな
家集三百六十首中　　ようぜい

はるさめ 春雨のふるさの山をさしてのこえ
春歌のうち　　ゆきと

新古一 ぬれ 白雪ふる佐保の山の花ぬれて
ちぬれ　　卿

吹 ねせ 春風の吹かねばこそ山の花の落てすら
四百二十年百首　　二条院讃岐

お 春雨のふるさとの山の桜ゆへ
　　たろね 日
春雨のふるさとの山の桜ゆへ
家集陽花堂　　寂蓮法師

ちり残さん方もなきとさくらの花の村雨
家集　　かた

家集上 かば 春雨のふるいとのいとくちすする
春法性寺入道関白家百首　　うくひす 日

くも 雲の沼ふるとも池とくもりなかなる春の花
　　たき　　夫　　卿　　かな　　らかは

家系園中桜　源仲正

園もりかつと書の法しるし花を候

為忠後百

家系　かはさくら　雑宣彩花

[illegible]のあつ川のあれ桜花ひらしの[illegible]やまひしい

[illegible]寺　はらす　[illegible]議　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

十首[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

迎長十三年十月十合

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]

月

桜さく遠里山の春たに雪の[illegible]

法眼源兼

月

[illegible]

法印宗源

[illegible]

部卿

[illegible]

月

[illegible]

[illegible]

法印定雅

[illegible]

月

[illegible]

式乾門院内侍

[illegible]

[illegible]

五十

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百首哥　花西山　　法二位家隆卿

ちるかのなかれてとまるかはのなみ
　　文永元年七月百首　　民部卿為家

まつはなをこそうのはなの雪
　　宣

　　前左大臣

家集

ふるゆきの雪のうへにかさねてはいとゞ花ぞ
　　為仲朝臣

ちるかのなかれてとまるかはのなみ

遠仁二年哥合　　西行法師

すゑのまつやまこしのはなの雪
　　俊恵法師

家集

ちるはなをこしのしらなみ
　　俊恵法師

百首哥

ちるはなをこしのしらなみ
　　寂念法師

櫻あさの野のうれんせうあうそのめつらあるたちさき

建久八年百首御合　第六番　寄顕　藤原為家

為家卿の尾の山の櫻ちるをりの間をこのもとたき

洞院摂政家百首　光俊朝臣

為家卿の間なくみたえしを波のなかみさきかすみ

寄月中恋　歌

後二位

櫻咲奥津浦の山ちるをいそ浦かまつるかのしらくも

建久六年詩歌合　望

えくえくえくえ

人家

[illegible]

文永二年七月白河殿七百首歌合

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大蔵卿為忠紀方卿第中納言定房

[illegible]

[illegible]

家集

[illegible]

[illegible]

原順歌世家集

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

二字下

源仲正

[illegible]

[illegible]

[illegible]

建保三年百首　前中納言定家卿

家集上

おもかげにうつる花の色ゆゑ代のもくさのあはれなる

月

うつりしいまの世の花のかずかずにこころぞ

月

正二位知家卿

春の山のこずえのうつり風ふきて

月

やまの向

吹ぬけばこずえの花の散ぬる

順徳院御製

月

ちるとみるひさかたのゆめのうつろひ

月

花

すぎゆくはるのなごりなれかな

月

花

正二位知家卿

ちりはてぬ花のうつりもつくさぬ

月

建保三年百首　前中納言定家卿

夢の中

新拾遺春下

みやこびと

洞院摂政家百首　花　正二位知家卿

慈鎮和尚

佛歌

百首歌

枝さ

ほの

思定卿

正二位知家卿

百首歌

顕

さた

建仁寺前内大臣家花合

[illegible]

家集云

綿谷のごとしめがしこびをおもふこころ

うりしよせけ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

永久四年六月八条入道太政大臣家歌合 桜

法大寺左大臣

花さかりすぎの松山けふはまた波たちかへる春の風かな

光長卿院入道三条殿家百首 山花

法三位花宮

桜花さくらさきぬるすゑのうすくれなゐの色もそまぬる

老若五十首歌合

藤原定家朝臣

ひのくまもなくかすみこめたる

千五百番歌合

俊成卿

桜花うすくれなゐのすゑのかすみのうすもれる春はよもぎのもち

月

わかうものすがたとけふのはるのかすみとうつりくる

月

春上

花や雪のうつろふ物は何ぞ

藤原家隆

雪の葉をとふ花

続後拾春下

雪ふるあしの物とみてつる雪よりまさる桜ぞ

久安百首

藤原俊成

ふるの山花の姿をうつしとる桜ぞ

結願門院御川

遠保三年百首

俊成卿

春鶯やうつしの枝ふるの本ぶりもれぬる花とぞ

家集

清輔朝臣

いかさまにかるこそのひとのあるらのれんの花やまのやまとめ

久安百首

大炊門右大臣

みやらねとふりにしよりもとしをへてあさくらやまの桜へ

長治二年四月宣旨合桜

西行法師

ちりぬるをのこりなくさくらやまたにをとしてゆくこの春

家集書写中

法二位家隆卿

ありへてあさくらやまの桜花ゆきてもぬるるそのまもなく

建保三年内裏百首合法二位為氏卿

春ひさしくなりぬるかとのはるけまくもかしこけれとつねの間

法二位為家卿

家集関白桜

源仲正

ちる程はよしなくとはいとはしかりけるとはいとはしかりけるとはいとはしかりける

貞應三年百首歌 庭曉落花

民部卿内侍

散なれる庭の桜をとゝめうしてたゝしかの月

百首四首

たゝりかゝる月いみねの峯の花のまたさゝぬ山

百番四首合

順徳院御製

ちりかゝるむもれてくゝりたる家やの月もあらしの清のゝ月

まて志ちりしのゝ風の月の春の花ちるゝ桜のうけてゝ

天福六年

花のちるゝ心のゝ月ゆくゝ春いせくゝ

義久二年四度百首 拾二位藤隆

ちりかゝる庭のゝ月もあしの花のゝ花のゝ

寄月花 かみかせ

おもうぜ

家集

大僧正行尊

桜のうゝあゝ山風に吹ゝてゝすゝのゝ月花

百首 寄月花 山伯

ちるむとゝあきあけのゝ風の間ゝ本末ゝ

永治元年百首

民部卿内侍

散つりむの間とゝ吹ゝ月の花のゝ

弘徳元年三月百首歌

春月は野辺のかすみにみえぬまてそのれとうつるいちしろく

定家卿家百首和歌　侍従隆信

さくらはなりさいてうけいんとうしのはるのかすみうつるぬ

建久八年百首奉合　従二位行家卿

かせにまつはなとなきあくるいはかはかすみ春のあけゆく事

大弁宰相家百首　部御卿

苔の衣のうらはなにうつりかはりてうつるはるん

仁和寺宮五首　前中納言定家卿

ゆきのはるのうちわかつるはなさくらはるのかすみのうちにせく

第九二十年中宮百首歌

花のうちのさくらはなのうつるとはいはしらすのうつるとはいはしらす

文集百首　花園城中一地春深三月天

春のやへ山の浪のようつるはちるらん

桜宮花園城

吹

風はなのしるるけいのうつるもうつれるはるん

春雨に花ちるこの雨

あくけき春のうへよ花のうつるとはいはしらす

倫雨行のおもこそ春雨

都なる河とあくるうつるはるのあらうとはいはしらん

新千載春下

[illegible]

[illegible]

花山院四製

[illegible]

家集

[illegible]

中務

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

代花冊子

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源仲正

[illegible]

為忠後百

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春

春風のふけばのうらにはちる花を桜ひとえにかなしとぞ思ふ

はるかに家集の中文にて桜のちる花を

ふとところにひしーと顕綱卿のもと

もちらるる歌を箱のうちに入れてもてゆ

うしろにちるところ

下字ニ

久安百首

ちる花のうらにはるかにうつれば春のとやちらんん

百首歌春風院

春

ちるものをうらにはるかにうつれば春のとやちらんん

作

春風院

花のうらにはるかにうつれば本のうちにのこりてもちらるる

後

桜

桜ちりうつる程は波にてあらうかう西の桜にてこそ

ひさき

はりつるすきをうらはるかに武蔵の国にはるかうつる

桜

ちりけるやせきうつるかうたに桜をひとえにうつれて計入て

円

新院よりとさかりて新ようこそうたれ桜まつり

後

てら先つ

撰大納言実家卿

桜花ちりうつる波のうらにはるかに

なみ

家集義方卿

いとこ野のうちの雪ちる花さうたりたるみてこそ思ひかん

えせ

ゆき

おな

義孝二年住吉社の合

たにの中ぬる歌

円

住吉のうちの桜とうたてとくんいめでやたれやうん

石

近

ひと

家集門第花とうるを

雪ふる人

山桜ちるこころの門のまばらなる花ゆゑとるる和歌

花中中

ちるこころやすみうとゆゑ

はりはやこころの雪ゆゑ花

門ちるこころなるわ

文治六年女院入内屏風

白太夫

こころのうちあひて

中務集

中務みこ

こころうつる世のつさうあしとうやはにん

花月百首

枝ゆゑ

秋の文庫のつもりてるゆゑの

西院土百首

枝ゆゑ

うゆゑのつゆゑ

仙洞千首

藤中花

遠仁久年十首

藤中思花

[illegible]

[illegible]

[illegible]

家集橘

千春上

清慎公

弥生のこしろの山の桜をみてよめる

和泉守百首　評郷

咲ぬるもうこの山乃橘をすぎ行よかるもしるし

同　二年一百首

しろ山吹のつりうんをとゝろめ雪のあけ

貞元二年前摂百首　同

しろ山吹やうりん寺の春の雨よ浦てかまつ

同

山家中

見しろ山吹のちゆゑ雪ゆゑ春の花の夜うす

元元元年法住寺合歌

あさつまや中の宮方うたもの花のあう春の浦

家集藤原清輔

遠き八年百首歌合　長保元年

霞たちひさしの山のすゝ山のすゝ元の橘

永万二年重家卿家歌合

法三位経房

新続古春下

あつまやの雨のうちへよ弱ちてひとの宮の花をうゝ

法勝寺院政

雲葉

もさゝ山ひとの山乃あ山れい橘よ春のうゝ

法勝寺院政

百首歌

寿蓮法師

櫻花ひらの山風吹ぬしは花の袖にうつるなるかな

千載百首歌合

同

ちるはなのさそふあすかの風ふかん

西洞二年百首

駒とめて花をぞ

櫻さく山もとの風ふるてしあさかすみ花のさかりなる

家集花の中

拾中納言方に

櫻さくやまの風ふるよ花のさかりなるかな

かしの門院の宰相

同

海ちかくしらの山風おろしてうちしのぶのなみのうらかな

法印定円

ちるのうやすむ洞ちかきあさすしらの山かせ

家集山路ちる

吹分

ちるそのの花の和歌ゆきのもとのもとのさくらの花

同

西洞二年百首

ちるまくの花のかさよりたれてゆくもやれぬちるの山

六百番歌合

慈鎮和尚

みちもせの花のちるかとあるまてくるとの山こえ

門集社前花

後鳥羽院

垣根よりゆくものみつるはちるのうなるさくらかな

永久二年十二月六條殿歌合

屏風

[illegible]

[illegible]

家集百首中

[illegible]

[illegible]

[illegible]

花やとりさそふ嵐いとはしや風さへぬしの桜とうら
風のけいとのうちとりてとすると山桜かな さくら
同

西洞院左百首 歌

花の色はまさる山いとの松間をとうめれさのうち
洞院摂政家百首 花 同九条内大臣 後除

ちるあらしやみやまとのるとなれやまさりしくもの桜い
内大臣家御歌合 井 さくら

ほとゝぎす 花のうつりをすてゝ
はつかりのこゑつまやおもはる
花山院内大臣 給

こたち
玉春下

おもふこゝろ桜院千人会 基俊

万代集一

ふるいまの年のうきはけれわすれてあるものひとをさくら
早

永万二年二条院御所歌合 花

うちなびくはるの浪のよせかへりなつ
建久八年百首 歌 俊成

花のいろはうつりにけりいたづらに
西行法師家集

頼こゝろ光
なるめ

日

花のえんにさそはれて

従五位上行式部少輔藤原朝臣信実

弘安元年百首花　　前大納言為氏卿

春のきて宿のあるじ花ぞ

千五百番歌合　　前大納言為氏

うぐひすの声のかぎりを花の

風雅春中

百首歌

藤原信実朝臣

春の来て法師

あさみどり

霞ぞ

千五百番歌合　　前大納言為氏

いつしかと花ぞ

千五百番歌合　　前大納言為氏

花ちるぬ物の

法橋隆弁

法橋隆弁

日

花月百首

遠久元年百首　　前中納言定家

春の来て

遠暦三年閏春法皇御幸

法二位家隆卿

桜色のうすくそめたる紙に書き

歌ども

清輔朝臣

鶯の鳴くなる声の聞えぬ

家集國

鶯の巣ばかりをいとはしの

久安百首

皇太后宮大夫俊成

いかばかりもとをいとはしの

家集花部

花部

西行法師

うき世をいとはしの

家集花部

家集花部

家集花部

苔

苔のとよむらくもいらかなる　殿

　　長門守中

あるものこころひとつにかりけるこのゆふぐれの桜花ゆゑ　除

　　内大臣入道関白

　　中納言みこ強会

　　内大臣源山花

ちりゆくるかぜのはやさ山桜　さくら

　　正治二年毎日百首　中　　部卿

　　藤原家隆

咲花よ紅葉ちりくるゆふ嵐　やなき

　　雨打ち人

　　家集　　きぬ

ちりぬるかぜのこころのあらばこのうめ人のまくらかな　ひと

　　寂

　　正治百首　　藤原俊成

まつりていぐるまつりみのくれ花のはりま　陪

ちらくるかぜよ行ちらば庵　花のちりうれば

ちる花の　庵　　月

　　家集西中納言

　　月

　　家集

　　月

　　家集

　　月

　　家集

時とうぬ未の春山うすうすとのもの花あてとうつる雲

同

三位信家卿

春風はすゑの松山浪こえていろまさるやうん

花は盛中

坂保内大臣

うゑうゑ人ゆうさ家の山門よりうゑうゑ桜うゑ

散木春

倫範朝臣

あうゑ聖い宿をつとしちう初花をとめはよゑうてもし

同

門をとてこゑうゑの山よりちるむやうゑう純の名おうゑう

文永八年毎日一首中雪

郎右衛門尉

しゑ山や桜ちうゑ春のとのやうひうゑたのわれ白雪

同

新古今年毎日百首中三月二日雪のふりて

山桜花の色まがへる雪ハいとゝ春ハ中さくら

同

同三百首

とけうゑ人花の下紐ちうれてやうひのそよ初春雪

同

百首三年毎日百首中

海をゆきて行秋さむうる雪のうゑ山すうれる花のか

帖

宮内卿

新六ノ二

ゑれいうゑと春のゑ山いうる果て八重咲うるつゑ桜か

花

信実朝臣

同

ちうをとうゑ地とゑうゑ切りわいつゑ桜

同

ゑまうゑ

月

秋ぞこそやくとんこしらふの山のこたにすくれすみのの山桜の花

ふみ百番歌合　大納言通具卿

春のうまきをふの山の桜もしれうのうちくらのさくらをへ

遠保とも　又百番　前権帥歌　吹飯院四家

秋ぞこに花いさりあくとみちすくの里ふの山の春風の山

正三位家衡卿

月

思ふ山みられてもいわろひぬうきりもくれすの春風

皇太后宮大夫俊成卿

月

なのはなとまをしや桜思ふ山もようれろ春風こそ

文治三年百首

前中納言定家卿

新後撰春下

ふるひりや思ふの思ふの桜花風ふもれぬうちやのうと

重日　堀河

三百番歌合　行家卿

秋ぞ八月ねとのうふ桜よくふれ春の山さと

大納言為家

月

又春ふ山ふ春ふ春ふ春ふ春ふ春ふ春ふ春ふ春ふ春ふ春ふ

お中納言宗家卿

月

なのうふひぬひりのうにけ山日ふ山ふ山ふ山ふ山ふ山ふ

為氏和歌

月

思ふのふたつふのふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ思ふ

月

雲の日乃なくさめかてきとてはるまつ[度]さらし[ね]てん

同　　隆信卿下[臣]

うらてつたれいはき雲の日をはけき物とうらふん

永久四年百首　雲日　　仲実卿下[臣]

百くるさへつる雲にくとるれとも月乃りつてのと

遠久えんを百首　　前中納言定房

[句]

[樓]

樓乃上はのくそこ八月のわて雲ふさこのひとしの[そ][ら]

同七年百首歌　　寄月

月いとをそくいてゝ雲ふかはのうちあんのう

[お][そ][が]

花ゆへ[枝]よあるすうこふくこのう

雲月[ゆ]三行分トル

百首ウ歌中

[殿]

[舟橋]

[月]

[おも]

[ん]

[ん]

[ん

月

四季百首歌

月毎日百首中

月新のあらし月すむ山やまの月

月

同三年毎日百首中

月

ふる雪のうすきに浮き山のそばたちてゆく雲の月

或る人親王歌和の四季百首

月

いとひつる雲のあらしの月もたすけ出めあらしの月

千五百番歌合

月

新続古春下

ふるさと山花ふき乱れ散て雪ふる里の月

月

四季百首歌

月

霞ふかぬ月よ松をこえわたる

月

ゆきていまうつくしきあらし花のうけもつあらし雲の月

月

三条前帝後京暮鄭明新院宿雨月

花よすむ山のゝ（居代きそ）とゝの浦まの月（つき）とうけまとうり

義行中納撰院　　前大納言為兼卿

たゝ（そら）そらう義の（まる）霞の関（関）ゆ（ゆ）ゆ月秋のゆ（ゆ）ゆ（ゆ）ゆ（ゆ）

霞み（かすみ）ゆ（ゆ）ゆ（ゆ）ゆ（ゆ